

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市環境審議会		
事務局 (担当課)		ゼロカーボン推進課 電話042-769-8240(直通)		
開催日時		令和7年2月18日(火) 15時30分～17時10分		
開催場所		ウェルネスさがみはら7階 視聴覚室		
出席者	委員	15人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	12人(ゼロカーボン・資源循環推進担当部長、ゼロカーボン推進課長、環境保全課長、水みどり環境課長、廃棄物政策課長、他7名)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		1 開会 2 審議 (1) 令和6年度版さがみはらの環境(相模原市環境基本計画年次報告書)(令和5年度報告)(案)について 3 その他		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

1 開会

定足数の確認の上、開会した。

2 議題

資料1を基に、事務局より説明を行った後、会長の進行により議事が進められた。

(南部委員) 36 ページ。最終処分量が増えた理由として、清掃工場の運転状況の変動の実験をしたという記述があるが、このアルミ等の資源回収率、発電量はどうか。最終処分量が増えていることから、資源は取れたが、ごみは増えたというようにトレードオフになっていないか気になったので、状況を教えていただきたい。

(廃棄物政策課長) 南清掃工場で最終的に燃したものが最終処分場に行くが、北清掃工場汚で焼却した焼却残さを、もう一度南清掃工場へ持ち込んで、改めてガス化溶融し、スラグ化、若しくは残さになるということもあり、年間の最終処分量に若干変動があることを含み置きいただきたい。ご質問いただいた発電量については、令和4年度の南清掃工場の発電が5889万4120Kwh、令和5年度が5277万3040Kwhということで、若干下がった。処分量の量が増えたのに比例して発電も上がったということであれば、この実証は非常に良い結果だったが、比例しなかった。資源の回収量については、有価となる金属の回収で申し上げると、令和4年度まで南清掃工場では金銀しか回収していなかったが、令和5年度は新たに、銅、それから、パラジウムといった資源の回収をした。金については令和4年度、約6Kgの回収だったものが、令和5年度は約7Kgと約1Kgの増。銀については令和4年度が10Kgの回収だったところが、令和5年度は12Kg。また、銅については、新しい回収ということだったが612キロ。またパラジウムは0.2kgだった。資源の回収総量としては、令和4年度の16kgから、令和5年度631kgと大幅に増えた。こちらについては良い結果だったなと思っている。焼却量、処分量、それから発電量と有価金属の回収については、まだ相関関係が見えてないところもあるが、引き続き、埋立量はなるべく少なく、発電、有価物の回収は多くできるよう検証していきたい。

(南部委員) 46 ページ。上の方の具体的事業「ごみ処理手数量の適正な在り方の検討」について、一般ごみの持ち込みごみ等の手数料が高くなったが、ごみの排出量は減少しているということだが、有料化に伴い、境界の地域に不法投棄が

増えるのではないかと懸念され、有料化を踏みとどまっているという自治体の話を聞いたことがある。この手数料があがったことに伴い、何か起きていないか調査されているのであれば、その結果を教えていただきたい。

(廃棄物政策課長) 手数料については3年に1度、ごみ処理費用に応じて見直しをしており、直近の見直しでは手数料が少しあがったが、そのことにより、お金を払ってごみを清掃工場へ持ち込む量が減ったということはない。

(古屋委員) 18 ページのエコアクション 21 相模原セミナーについて、令和5年度は参加事業者が3社となっているが、他市の入札制度などでは、エコアクション 21 を取得しているか、SDGs を推進しているかという質問項目があり、それに応じ、入札のポイントが良くなるということがあるが、相模原市ではどうなっているか。

(ゼロカーボン推進課総括副主幹) 本市の入札制度においても、エコアクション 21 の認証をされた事業者は、入札の際、加点されることとなっている。

(古屋委員) 49 ページ。事業系ごみのマニフェスト制度の導入とあるが、事業の概要の三つ目と四つ目に ICT について記載があるが、この二つが事業系マニフェストに関係するのかわからなかったので説明いただきたい。

(廃棄物政策課長) 産業廃棄物のマニフェストは通常、電子での提出となるが、一部、紙で提出しているところがある。その最終的な報告書も市が紙ベースでいただいているという実態がある。また、市条例に基づき、大規模排出事業者は年間のごみの削減計画を提出することとなっているが、これも紙やインターネットでの提出と、提出方法が不便で提出がままならないというところがある。例えばあるフォームから入り、所定のところに数字を入れれば、報告が終わるというような提出方法を、現在検討しているところである。

(古屋委員) 51 ページ。今後の方向性にプラスチック製容器包装等の資源化できるものが約 27 パーセント含まれているということであるが、これは現在、市で考えている製品プラスチック一括回収などが行われれば、容器包装以外のプラスチックも再資源化するというので、この約 27% も良くなるのか。

(廃棄物政策課長) 約 27% 家庭ごみの中に資源化物が含まれているが、このうち、令和4年度の組成調査で、容器包装プラスチックが 10% 含まれている。製品プラスチックはその他のごみに含まれているため、割合は算出できていないが、製品プラスチックを回収することによって一般ごみに混じっている製品プラスチック、それから資源として出さなければならない容器包装プラスチック、これらをどちらに分別するか迷うことがなくなり、プラスチックはすべて資源として出せる回収方法となることから、製品プラスチック、容器包装プラスチックいずれも回収は増えていくであろうと思っている。

(山重委員) 学校現場との連携について、質問させていただきたい。45 ページの出

前講座について、小学校にかなり普及していると思うが、今後、より発展する見込みがあるのか、このまま継続なのか。

(廃棄物政策課長) 現在、全小学校 4 年生に対し実施をしているが、非常に評判が良く、大変興味を持って聞いていただけていると伺っている。例えば他にも自治会等の求めに応じ出前講座等を行っており、できるだけ幅広く実施していきたいと考えている。

(山重委員) 46 ページ。給食の残さの飼料化事業を小学校 17 校と給食センター 1 施設で実施しているとの事だが、今後どうなっていくのか。

(廃棄物政策課長) 各学校の協力が必要であることから、大幅に拡大していくことは難しいが、引き続き、教育委員会と連携を図りながら、できるだけ多くの学校で実施できるようにしたい。今後、中学校完全給食に向け、大きな給食センターが 2 つできる予定であり、そういったところで残さの有効活用、飼料化やフードロス対策、食育といった観点も含め、引き続き、給食に関するごみの削減を教育委員会と連携して取り組んで参りたいと考えている。

(平野委員) 50 ページ。ごみ分別アプリ、市ホームページ、動画等の電子媒体による効果的な情報発信の推進とあり、情報等を冊子及びホームページ等で紹介を行うと書いてあるが、どのような効果があったか教えてもらいたい。

(廃棄物政策課長) 結果として、事業系排出ごみは、令和元年度が、重さで言うと、5 万 7000 トン排出されていたが、令和 3 年度は 5 万 2500 トン、令和 5 年度は 4 万 9800 トンということで、事業系ごみにいても、着実に減少している。様々な周知啓発も一定の効果が見られていると考えている。

(一色委員) 年号の書き方について、表紙は和暦だけだが、中は西暦も含めて書かれている。表紙も西暦入れて書いた方がよいかと思う。また、中は和暦に西暦を括弧で入れているが、統一されていないところがあるため、統一された方がよい。

(田中会長) 全体にわたる和暦、西暦の扱いは統一した方がよいかと思う。

(ゼロカーボン推進課総括副主幹) 和暦、西暦の併記につきましては、一部漏れがあったようなので、今一度確認する。

(池田委員) 1 ページ。子ども環境情報誌エコチルが創刊され、普及啓発のため発行していると思うが、配った後、読んでいるか、読んでどう思ったか、次回どうしていくか、そういうことがわかれば教えていただきたい。

(ゼロカーボン推進課総括副主幹) (株) アドバコムが毎月発行しているものになるが、毎月、この会社が、読者アンケートを実施し集計している。まだ、相模原版に関してはサンプル数が集まっていないところがあるが、毎月楽しみにしているという子どもの声が届いていることを承知している。

(稲子谷委員) 脱炭素の観点で、1 点コメントとご質問をさせていただきたい。15

ページ、(2) 今後の方向性の2段落目のところで、「2050年の脱炭素社会の実現に向けて太陽光設備の導入支援を継続するとともに、初期費用を必要としないPPA手法など、導入手法とその有効性の啓発を進めます」と記載があるが、全くその通りだなというふうに思い拝見した。おそらく、市の方で、13ページに記載の「相模原市住宅用スマートエネルギー設備等導入奨励金」等、そういったものを活用しながら、家庭や事業者への設備導入を進めていくということかと思っている。状況によって、自前で設置してしまった方がいい場合もあれば、初期費用を必要としないPPA手法という選択等、様々な手法が今現在あるというような状況かと思うので、少し時間がかかってしまうかもしれないが、こういった状況で、どういう方が、どういう手法であれば、一番導入しやすいかというところを丁寧にご案内いただければと思う。そういった観点で、条件的に太陽光発電設備の設置に至らないというような方もいらっしゃるかなと思っているが、そういった方々の選択肢の一つになり得る15ページの具体的事業にある「再エネ比率の高い電力選択の促進」について、みい電さんとやっていくような検討を進められているとあり、現在、事業未実施ということだが、今後の見通し等あれば教えていただきたい。

(ゼロカーボン推進課総括副主幹) 住宅用スマートエネルギー設備等導入奨励金については、令和6年度に補助金額の増額やコースを新設するなど、幅広い個人の方が使いやすい制度になるよう工夫しながら進めている。今年度の実績を踏まえながら、引き続き、市民の方が選択しやすい、住宅へのスマートエネルギー設備や、初期費用ゼロで設置できる形態の発電設備のプランなどの導入を促進していきたいと考えている。

15ページのみい電については記載のとおり、九都県市での広域的な取組として一体的に実施しているものである。国際情勢が不安定な中、電力価格が高騰していることから、令和4年度から未実施となっており、今年度についても、事業者には、電力価格や、このようなキャンペーンを実施することへの是非などについて確認を行っている。継続的に九都県市で検討を進めているが、電力価格が安定してくれば、事業再開が見込めると考えている。

(斎藤委員) 82ページ環境リスクについて、大気環境基準を達成したという話だったが、「2 現状」のところでは光化学オキシダントについては達成しませんでしたという記載がある。たくさん項目を調べていると思うが、その中で、光化学オキシダントは達成しなかったということだが、他は何を調べているのか疑問に思う。最近、化学物質に関しては、後から、実はあれが大変だったというような話がよく出てくるので、可能であれば、こういった項目を調べているのか一覧を、別記や別紙、資料編等に記載があると親切かと思った。ごみの関係は別冊があるのは存じ上げているが、もし化学物質等も別冊が出ているので

あれば、それでもいいかと思うが、なければ、調査結果が記載されていると良いと思った。

(環境保全課長) 大気の物質については、光化学オキシダント以外にも二酸化硫黄や、微小粒子物質 PM2.5 等、環境基準となっている様々な物質を約 30 種類ほど測定している。光化学オキシダントは、全国的に高い数値が続いており、光化学スモッグの原因となっているが、今年度は年 2 回、神奈川県となるこの地域に発令をされているところである。こちらについては、九都県市で連携をとり、ディーゼル車の規制やエコドライブの促進などの取り組みを進めている。調査結果の一覧表を提示した方が良いとのことだったが、確認のうえ、検討させていただく。

(斎藤委員) 93 ページからは環境を守る担い手の育成ということで、各分野で様々な市民団体と連携し、支援していると記載があり、例えば地球温暖化であればさがみはら地球温暖化対策協議会への支援、生物多様性であれば、相模原の環境をよくする会やさがみはら生物多様性ネットワークへの支援があるが、資源循環に関しては、そのような市民団体との連携や支援という項目がない。4 R 連絡会と連携していると思ってはいるが、あれば書いていただいた方が良いと思う。もしないのであれば、これから市民団体との連携は大切なので、その取り組みを進めるべきかと思っている。

(ゼロカーボン・資源循環推進担当部長) 廃棄物の関係では 4 R 連絡会、フードドライブに関わる各団体、その他、自治会では、廃棄物減量等推進員等と協働し、取り組んでいる。この冊子では個々の団体の名前はあげてはないが、様々な方との協働が基本だと思っている。

(斎藤委員) 98 ページ。その他のところで、市民活動サポートセンターの講座の実施回数を書いてあり、広く団体支援とあり、環境団体だけでないことから、ここに数値を書くのであれば、登録している市民活動団体の中で環境関係の団体が何団体あるかという記載の方が良いのではないか。環境団体の増減がわかる指標になる。同じく 99 ページ。市民ファンドゆめの芽は以前、伝えたとおり、どのくらいその交付している中で環境団体があるのか記載いただくようになりよかったと思う。地域活性化事業交付金に関しては、環境保全に資する事業への交付が 7 件だったとあるが、これも、全部何件のうち、環境保全に関する事業は 7 件であったというように、書き方をそろえていただいた方が良いと思う。

(ゼロカーボン推進課総括副主幹) 98 ページの市民活動のサポートと 99 ページの地域活性化事業費については、ご指摘のとおり、記載を合わせられるよう、担当課に確認のうえ、記載方法について整理をさせていただきたい。

(斎藤委員) 125 ページ。「(2) 今後の方向性」については、中間目標を達成できていないことから、これからの連携や市民の担い手の育成に関して具体的にや

っていききたいこと等の記載があった方がいいのではないかと考えている。

(ゼロカーボン推進課総括副主幹) 125 ページの今後の方向性について、この施策が非常に広範なものであることから、なかなか具体を記載するのは難しいところもあるが、改めて検討させていただきたい。

(落合委員) 82 ページ。表の下にある、公共用水域及び地下水の環境基準を達成した地点の割合について、基準年の 2018 年が 87%だが、これに対し、2020 年から 2023 年が 75%前後と、低い水準を維持している。この理由と、それに対する取り組み、新たに考えられていることなどがあれば教えていただきたい。2020 年から 2023 年で 75%前後であり、これに対し、今後の取り組みが継続して参りますという記載では、最終目標に向けて改善していくというような期待が持てないという印象である。

(環境保全課長) 基準年度から地点数が若干変動しており、母数が減っているものの、分子となる基準を達成していない地点があまり変わっていないという状況であることから、今後の課題とさせていただきたいと思っている。また、基準値を超えている地点数が減らないというところについては、湖のリンや窒素が継続的に高いという状況がある。リンや窒素は上流の地域的な課題、例えば山梨県側の火山の岩石に含まれている成分や、生活の雑排水であり、旧津久井の地域でそのような環境があるというところもあることから、高度処理型浄化槽の設置などの取り組みを進めているところである。

(八木委員) 101 ページ。さがみはら地球温暖化対策協議会のイメージキャラクターを活用した普及啓発について、観光大使をやらせていただいた時、キャラクターは子どもたちが喜んだり、環境を考えていく上で、一つキャラクターを作るのは良いアイデアかと思うが、観光大使の活動の中で環境問題に対して具体的に動いたり、102 ページに書かれている、Xを使った SNS の発信というところでは関わっていなかった。相模原市を代表した観光大使と相模原の環境を考えるとというのも、キャラクター以外にも使える手法なのではないかと感じた。また、SNS を見たが、具体的にどのような工夫により、伸ばしていつているのか、SNS から発信するという事は、何かヒットしないといけないが、私たち若者からの観点で、見ている中、ハッシュタグの付け方が気になったので、具体的に SNS を使って発信していくには、どのようなところを意識しているのか気になった。

(ゼロカーボン・資源循環推進担当部長) SNS ではシゲンジャーというキャラクターを使ってやっているが、観光大使と直接的なやり取りはない。市のシティセールス、シティプロモーションの関係でも、ごみ関係の情報を発信したいと思っている。ごみ、廃棄物の資源循環の取り組みを広く PR することは非常に大事なことであるため、この 4 月から新たにごみ減量 PR 室という新しい組織を設置

し、特に若者にも届くような、ゴミの出し方、分別の仕方、それから最終処分場の延命化等、様々な課題について広く PR したいと思っている。

(ゼロカーボン推進課長) SNS の活用については、今年度からのエコさがみんなという X のアカウントを新たに立ち上げ、環境に関することを発信しているが、毎日 SNS が更新されているということ、非常に重要だと考えている。また、シゲンジャーやシティプロモーションの SNS アカウントと SNS 上でやり取りがあると、見ている方に楽しんでいただけると承知している。今後、観光大使ともそういったやり取りが増えていくと、広がっていくと思っており、うまく活用したい。

(熊谷委員) 今、PFAS の問題が全国的に言われているが、相模原市でも南橋本の方で高い濃度の PFAS が検出されているということだが、その水は飲料水に使われているのか。飲料水に使っているようであれば、市で検査していただく方向性でやっていただきたい。

(環境保全課長) 環境部門ということから、飲料水に使っているかどうかは、把握できていないが、ホームページ等で、飲用に使うのはお控えくださいというような周知をしている。

(小暮委員) 102 ページ。ごみ分別アプリ「シゲンジャーSearch」について存じ上げてなかった。これはどのようなところで PR され、どのような活用の仕方をされているのか伺いたい。今後の業務の中で、PR したいと思う。

(廃棄物政策課長) 市では、ごみや資源をどのように出すかわかる冊子を作り、配布しているが、紙媒体を見るのは大変だということで、アプリにごみの種類を入れていただくと、これは資源ごみ、これは一般ごみというのがわかるようになっている。このアプリは市のホームページや、この冊子の表に QR コードを付ける等により周知しているが、足りていない部分もあるので努力していく。ぜひ、お知り合いの方等に、広めていただけるとありがたい。

(小暮委員) ページ番号のことだが、8 ページが 9 ページになっていたの、修正いただきたい。

(平野委員) 先ほどの質問と似ているが、さっき別紙の話があったため、要望したいが、アプリやホームページが効果的というのであれば、アクセス数やダウンロード数、どう効果的なのか情報が出ていないとわからないと思うので、ぜひ検討していただきたい。又は今わかるようであれば教えて欲しい。

(廃棄物政策課長) シゲンジャーのアプリに関してはこれまでのダウンロード数が 5 万件となっている。ただ、その実績は特に表記していないことから、そういったものもお示しできる方向で検討していきたい。

(田中会長) この年次報告書は、令和 5 年の取り組み実績をまとめたものであり、例えば PFAS の問題などは、当時は現在ほど社会的関心があまり高くない状況で

あった。ただ、今後の取り組みについては、その結果等を踏まえ、今後どうするかということなので、最新の状況や、これから取り組んでいきたい内容を盛り込むということによりかと思う。また、事業の概要の個所では、この事業、施策項目を当初設定した時に、こういうことを実施するという内容を記載することから、例えば、先ほどの市民活動サポートの項は、市民活動としての観点でそれをサポートするという内容となっている。この実績をまとめる時に、環境の視点を少し入れたらどうかというご指摘があったが、今後の取り組みの中にそういう視点を反映していく、取りまとめの段階で反映していくとよい。

(古屋委員) 58 ページ。ごみの適正な処理について、今、脱炭素社会に向かって進んでいるが、再生可能エネルギーとして太陽光パネルが多く使われていると思う。前から急増している中、太陽光パネルの買い替え交換が進み始めると言われている。そうすると、太陽光パネルの廃棄物が大量に出てくるわけだが、これに対し、市はどのように対処するかお考えがあれば、お伺いしたい。

(ゼロカーボン推進課総括副主幹) 現在、全国的にこういったパネルの廃棄が課題となっており、国では、全国で統一した処理方法等について検討されている段階である。市でも、この状況を踏まえ、検討していく。

(山重委員) 107 ページ。その他のところで、小中学校等における環境教育の取組推進について、他のところは何校に行ったというような実績が書いてあるが、これは、授業や活動を行いましたのみであることから、対象校が分かれば、それを記載いただけるとありがたい。

(南部委員) 10 ページの第3章のタイトルの前が数行空いているので、第1章第2章と同じ高さにした方がよいのではないかと。

(南部委員) 49 ページ。先ほど話のあった、事業系ごみの電子マニフェスト制度について、それを今から導入というと、今更というように聞こえてしまうので、提案だが、導入状況の改善など、何かもう決めているけれどもそのパーセンテージあげたいというのが伝わるようなタイトルにした方が適切ではないかと。

(田中会長) 具体的な事業名や事業内容については、計画の中ですでに記載し説明してもいるので、変更は難しいかもしれない。

(浅見委員) 太陽光発電設備を普及していくということで、15 ページに学校施設への太陽光発電設備導入事業 (PPA) とあるが、具体的な実績をお聞きしたい。

(ゼロカーボン推進課総括副主幹) 令和6年3月に当事業に係る協定を東急不動産と締結したことから、当報告書では、このような書きぶりとなっているが、令和6年度は8校ほど、設置に向けた工事を進めているところである。引き続き、令和8年度までの3ヵ年で、30校程度の設置を目指し、進めているところである。このことについては、また改めて年次報告書等にて報告させていただく。

(田中会長) ここで、欠席の委員からご意見をいただいているとのことなので、事

務局から紹介をしていただきたい。

(ゼロカーボン推進課総括副主幹) 本日、ご欠席の吉永委員から、2点ほどご意見をお預かりしていることから、ご報告するとともに、回答させていただく。まず1点目。21ページの下段、「都市緑化の推進」について、奨励実績の生け垣総延長が38m、屋上緑化等緑化設置総面積37.4㎡と、かなり限定的な実績となっており、交付された奨励金がこの実績に見合った額なのか、費用対効果が限られている場合には、事業継続について検討が必要ではないかといったご意見をいただいている。こちらの意見に関しては、水みどり環境課長より回答させていただきます。

(水みどり環境課長) こちらの事業は資料にもあるが、まち・みどり公社と連携し、実施している事業である。まず、生け垣については、災害時の延焼拡大防止、あるいは民有地緑化の推進を目的として実施しており、市民の皆様がご自宅に設置する生け垣に対し、奨励金を交付している。令和5年度の実績は2件で38m、奨励金は15万円であった。また、市街地におけるヒートアイランド現象の緩和、民有地緑化の推進を目的に、建築物の屋上壁面緑化、それと駐車場緑化についても奨励金を交付しており、令和5年度については申請が2件、37.4㎡で奨励金が32万円となっている。どちらの奨励金も不動産事業者等は対象外としており、個人で実施する場合に申請をいただき、奨励金を出すという制度である。そういった観点から、民有地における緑化の推進に寄与している部分もあると思っているが、ご指摘のとおり、申請件数が限定的になっていることから、周知については課題があると思っている。現在、まち・みどり公社のホームページやチラシ、あるいは事業者に対し制度をご案内いただくような周知をしているが、まち・みどり公社と協力しながら、より積極的、効果的な周知を、今後、図っていきたいと考えている。

(ゼロカーボン推進課総括副主幹) 続いて2点目。62ページ、下段の野生生物保護施設の設置検討について、取組状況に検討したと記載があるが、その結果、何が決まったのか、検討内容及び今後の方針について、具体的な説明を加えていただきたいといったご意見をいただいている。こちらについても、水みどり環境課長より回答させていただきます。

(水みどり環境課長) 野生鳥獣の緊急一時受け入れを行う野生生物保護施設については、現在、保健所で検討している動物愛護センターの設置の中で、その機能の一つとして位置づけるかどうか検討している。動物愛護センター設置の計画については、今のところ令和7年度に基本構想・基本計画を策定する予定になっており、その前準備として、保健所と調整、検討をしているということで記載をさせていただいたが、ご指摘のとおり、具体的な説明もなく不十分な部分があることから、例えば、「(仮称)動物愛護センターの持つ機能として、この

野生鳥獣の研究一時受け入れ施設としての、機能を位置づけることについて、保健所と連携し、検討しております」というような形で、修文をさせていただければと思う。

(田中会長) それでは、本日の審議は以上とする。追加でご意見、ご質問があれば事務局に直接お出しいただき、回答も合わせ内容を一括して、事務局で整理のうえ、委員に共有していただくという形にしたい。

本日の事務局の回答でも、報告書に追記するという説明があり、さらに皆様からもいくつかご意見をいただいた。修正、修文できるところは、意見を踏まえ、反映させ、より良いものにしていきたい。修正等の調整については、会長に一任をしていただくということで、会長と事務局の方でやり取りさせていただきたいと思うが、会長に一任ということで、よろしいか。(異議なし)

最後に、事務局より、事務連絡や今後の予定等について改めて説明があり、審議会を閉会した。

以 上

環境審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	一色 正男	神奈川工科大学 研究推進機構 特命教授		出席
2	大河内 由美子	麻布大学 生命・環境科学部 教授 (相模原市廃棄物減量等推進審議会委員)	副会長	欠席
3	落合 裕隆	相模女子大学 栄養科学部 教授		出席
4	川久保 俊	慶應義塾大学理工学部 准教授		欠席
5	高田 久美子	麻布大学 生命・環境科学部 特任助教		欠席
6	田中 充	法政大学 名誉教授 法政大学地域研究センター客員教授 (相模原市地球温暖化対策推進会議会長)	会長	出席
7	南部 和香	青山学院大学 社会情報学部 准教授		出席
8	山重 ふみ子	玉川大学 教師教育リサーチセンター 客員教授		出席
9	吉永 龍起	北里大学 海洋生命科学部 教授 (相模原市水とみどりの審議会委員)		欠席
10	浅見 佳寿	相模原の環境をよくする会 会長		出席
11	池田 珠三子	さがみはら消費者の会 委員		出席
12	井上 章	さがみはら津久井森林組合 代表理事副組合長		出席
13	熊谷 弘	相模原市自治会連合会 理事		出席
14	斎藤 奈美	(特非) and Advance 副代表理事		出席

15	古屋 伸夫	(特非)かながわ環境カウンセラー協議会 相模原支部長		出席
16	畝住 悦子	相模原商工会議所 副会頭		欠席
17	稲子谷 昂子	(環境省)関東地方環境事務所 環境対策課長		出席
18	小暮 祥子	中央区在住		出席
19	平野 晋哉	中央区在住		出席
20	八木 悠子	緑区在住		出席